

黒石市立小・中学校適正配置第2回検討委員会会議概要

1. 日 時 平成22年6月23日(水) 午後1時30分～

2. 場 所 黒石市役所 3階 中会議室

3. 案 件 1. 適正規模について

4. 会議における主な意見 ※ (○印は委員の意見、→は事務局の回答)

【学校の適正規模】

- 少子化が進む中で統廃合はしかたないと思うが、地域に根付いた伝統文化や行事がなくなるとすれば、一概にいいとも言えないのではないかな。統廃合になっても、これを残していく方法を考えていかなければならないのではないかな。
- 小学校がなくなれば、地域活動が衰退するのではないかという思いがある。このままでは学校運営にも支障があり、大変な問題だと思う。
- 数字からクラス数を考えるのも非常に大事だと思うが、地域のことを考慮するのも大事。親の視点から言うと、小学生と中学生の子供を抱えている時に、小学校と中学校が違う方向に位置するというのは不都合であり、小学校と中学校の位置関係も考えながら検討していく必要があると思う。
- 地域との関わりを言えば議論が進まないということもあって、ある程度切り離す事も必要と感じる。行政として1小学校区1公民館の体制作りをして、公民館を中心とした地域活動で学校支援を実践してきたが、それを一回否定する必要があるのではないかなと思う。
- 私の小学校は、地域との関わりを大事にしている。統廃合の話は周りから聞こえてきて、通学の問題が一番話題になる。周りの人たちが敏感になっていて、それに対応する話し合いの場が必要と思う。
- 以前は地区に児童館がなく、数年前にりんごクラブができて、1年生から3年生を預けられ、働くお母さん方はだいぶ助かってきた。その後保育園でも学童保育ができて助かってきている。高学年になると部活に入るので子供たちを地区でも見守っていけるし、部活で先生方が指導してくれるという形になってきてから、段々地区は安定してきたと思う。
- 新聞等を見ると、教育審議会では35人から30人学級を検討している。更に1・2年生は、それよりも少ない人数のようだ。30人が適正なのか20人なのか、私には分からないので、ある機会を通して、現役の先生に何人か来てもらい話を聞くのも良いのではないかな。それから、牡丹平小は3年生と4年生が複式になっているが、何人だと複式になるのか。あと、東小の2年生は70人で3学級、中郷小の3年生は72人で2学級になって

いるのは、どういう事なのか。

- わが地区は、小学校のすぐ側に公民館があり、お互いに協力していろいろな事業をしている。6年生が36人もおり、30人以上になると先生も大変なのかなと感じている。やはり、1クラス30人位がいいのでは。うちの地区は村部で、学校行事やPTAも、夜や農業が落ち着いた時に行っているのも、もし統廃合すれば、なかなかPTA活動に参加しにくいと考えている。
- 子ども達を見てるといじめや不登校は学校の規模には関係なく、また各地区に学校があり伝承文化を授業に取り入れているが、地域がなくなるのではないので、学校が統合されたとしても、それらがすべて無くなる訳ではない。地域として考えていけると思う。一番大事なのは、せっかく卒業して社会人になってもニートになったり、コミュニケーションが取れない、社会にとけ込めないといった事が一番問題じゃないかと思う。そういう子供たちをどうしたらなくすような環境で育てられるか、我々大人が考えてあげないといけないのではないか。あるものがなくなるのは大変な事とは分かるが、新しい時代、現実な時代に向けた覚悟も必要と感じるので、今の問題は前向きに考えていいのではと思う。
- 資料を見ると、確かに統廃合せざるを得ない数値が出ているのかなと思うが、今まで自分が育ってきた学校がなくなるのは、自分の故郷がなくなるような感じがする。小さい学校のメリットも、もっともっとあると思う。少子化だけでなく黒石の人口の減少が問題なのかとも思う。この検討委員会の他にもっと幅広く意見を聞ける場が必要だ。
- 各学校のクラスが減っている状況であれば、統廃合せざるを得ないということで、この委員会ができたと思う。今のままでいけば一番いいと思うが、そうならない状況にあるということ。デメリットをどれだけ軽減できるか、その辺を検討してやらざるを得ないのではないか。
- 適正とは何か。子供が主なのか、行政が主か、町が主なのか。学力もスポーツも、やろうと思えば小さい学校でもできるし、交流学习という方法も使えると思う。ただ、人との関わりは非常に難しい。へき地では幼児の時から、小・中学校、ずっと同じ集団で過ごしているので、子ども達の中に、知らず知らずに順番ができるという欠点があるし、大きい学校は個性がないと埋没してしまうデメリットがある。だから、我が母校という感情がないまま大人になる子もいっぱいいると感じている。統合の例として、AとBという学校が統合してAのほうに校舎を建てた。そうしたら、B地域の保護者は全く協力しなくなった。また、AとBという学校が統合して、真ん中に建てたら、両方の地域の人が協力しなくなった。来るのは役員ばかり。そういう事があったので、この統廃合という問題は非常に難しい。だから、適正の主語を何にするのか、子供にするのか、行政のお金の事にするのか。青森県では、1年生と2年生は、33人学級にしている。それでも多いという先生もいるし、足りないという先生もいる。67人になれば、3学級になって1学級20人となる。20人はさみしいという先生もいるし、20人はいいなという先生もいる。若い先生方にとってみれば、少なければ少ない方が楽だという気持ちが強いと思われる。
- 適正というのは誰にとって適正なのか。大切なのは子供であり「子供が育つ環境をど

のようにするのが子供たちにとって必要なのか」というのがこの適正規模の基本ラインではないか。育てるという所を基盤に置けば、黒石の子供たちが今どういう状況で、近い将来こういう状況になるだろうという数値がある段階で、「今私たちが何を子供にできるだろうか」という視点で適正規模を考えていくべきなのではないか。それが、今私たちが集まっている理由で、その目線を外すと確かに母校がなくなる寂しさとか、そういうことは沢山あると思う。でも、新しい子供たちを今どうやって環境を良くしてあげようかという目線で行くことは、新しい黒石を作るという目線である。今の子供たちが大人になった時に、「大人の人たちが、私たちの事をどのように考えて、どのようにしようとしていたか」というのが分かるような事がとても大切なんじゃないか。その場合、何十人だから適正だとか、何十人だから不適正というのもちょっと違う。必要な人間環境として、何人いたから大丈夫というのではなく、地域が大丈夫だから大丈夫というのでもなく、学力がとってもいいから大丈夫というのでもなく、たくましい子供を育てる環境というのはどこにあるのか、もう一度みんなで考える必要があるのではないか。それが本当の意味での適正という形なのかなと思う。そこを共通基盤にしてみた時に、例えば黒石の学校の中で、3人1クラスで大丈夫だと地域の人たちが言ってる所があったとして、それは本当にそうなのか、地域の人たちのエゴじゃないのかということはきちっと言うべきだと思うし、それに答える地域もなければいけない。そういう意味で、子供たちをどうやって育てようか、どういう環境が子供たちにとって必要なのかということを話し合うべきだ。その辺を基盤に置くと、新しい黒石を作るという環境も必要だろうし、子供たちと一緒に大人がやる作業でもあるだろうという考え方ができるのではないか。何々してあげようというのではなくて、一緒に子供とやりましょうという視点が大切なのだと思う。

→ 学級編制については小学校1・2年生と、中学校1年生の学年に限り、33人でクラス編制ができるという県のきまりがあり、1・2年生で67人いると3クラス、3年生以上だと72人なのに、今度は40人学級という考え方をするので、2クラスしかできないきまりになっている。複式についても、県は小学校の場合で1年生を含まない場合、例えば2年生と3年生、3年生と4年生の場合だと16人以下という数字が示されている。今回、牡丹平小学校の3年生と4年生が1クラスで複式学級となっているが、3年生が5人、4年生が9人、合わせて14人ですので1クラスとなっている。

○ 私の中学校当時は1クラス45、6人の8クラス。すべての部活があり、部員の数も1年生だけで十何人で、みんなその中でもまれる。当時は、中卒で社会人になる人が4分の1位いたが、社会人になっても上下関係も分かるし、厳しさにも耐えられるし、人の痛みも分かるし、そういう体験をさせてもらった。そういう意味で、部活はみんなが入れるくらいの規模であればいい。人数の少ない学校だと限られた部活にしか入れなくて、かわいそうだ。

○ 子供の心とか体の成長だけではなく、人数でもなく、これからの子供たちがどういうふうに強く育っていくかを考えていかなければいけないと思っている。

○ 中学校と高校は非常に似ている部分が多いと思うので、高校のことを中学校に照らし合わせて考えてみると、生徒がそれなりの部活動に参加できる、自分がやりたい種目を選べる人数というのはおよそ500人位で、1学年4、5クラス。それくらい的人数がいれば、

部活動数もそれなりに作れる。小学校は、3クラスで学年の先生が3人くらいいれば、いろんな事ができると思う。この統廃合を考える時には、確かに子供の数的には統廃合を進めるべきだという所は理解していても、さてどういうふうにと考えた時には、この地区の子供たちをどういうふうに育てていくのかという所がこの統合案の中にきちんと明記されて説明していかないと、受け入れられない。したがって、この委員会のどこかの機会なので、将来の子供たちをこういうふうな子供たちに育てたいからこういう案を作ったという、話し合う場を作ってほしい。

- 学校は基本的に勉強する所だと思っているので、幼少期、思春期で生活の常識、地域的な認識というか、ある程度共通できる範囲ではまとまったほうがいいと思われる。
- 適正の問題は、現状のママがいいと思う。
- メリット、デメリットを考えた時、自ずとその学校の人数が決まってきて、今後どうしたらいいのかを考えればどうなのかと思う。
- 適正規模というのは、人間の結婚適齢期と同じで相当幅があるものだ理解している。
- モンスターペアレントという諸問題もあり、先生は子供たちを指導する以外の所で手を焼いている。ゆとり教育が始まって、ゆとりがなくなったのが先生みたいな感じがしているけれども、学校現場にもいろいろな問題がある。将来子供たちをどのように育ていくのか、やはり人間を育てるみたいな目的を最終テーマにしてもいいのではないかな。
- いい学校というのは何なのか、親がいい学校というのは果たして子供にとっていい学校なのか、数字だけで追うのはいけないが、やはり最終的には社会で子供たちが立派にやっていける環境、学校時代はどういうのが一番いいのかということを、我々大人がみんなで一生懸命議論をして、その地域に合った形を責任を持って結論を出していくのが一番いい方法だと思う。
- こういう委員会が立ち上がったという事は、市の財政なり学校経営なりの問題も出てきているのかという部分も感じられる。小学校は、歩いて通える範囲が一番いいのではないかな。様々な事情があるので、その辺どれが適正かといえば今のところ難しい。
- 学校目標は、「頭づくり、心づくり、体づくり」が三本柱。これをうまくやっていくのに、一番適している人数は300人から500人、小・中学校とも、それくらいの規模だと思われるし、小・中とも歩いて通える範囲がいいのではいつも思っていた。しかし、2キロだと子供の足で30分、中学生だと4キロで45分とか、特に中学生は冬自転車を使えないので、その辺を考えて歩いて行ける範囲がいい。規模としては、300人くらい欲しい。
- 距離については歩くのが当たり前だと思っている。家の玄関を開けたら学校だなんて、そういう送迎をしてきた親は愛情のかけ間違いである。人というのはみんな集まりたがるもので、みんなが集まって初めて楽しい。初めて育って、初めて自分の居場所があって、初めてその位置で自分が何をすればいいかが分かる。人が少ないと仲間同士から教わる

事が、すごく少なくなってしまう。強くたくましい子というのは、そこらのバイ菌には負けることなく、なお弱い子供を見たら助けてあげるようなイメージがある。私が育ったという考え方を、こうすればもっといいとか、もつと楽だとか、地域のことも大切だと思うが、「今の黒石の子供たちに必要な環境とは何か」を、みんなで考えればいいと思う。

- 子供というのは付加を与えて、あるいは、自分が求める方向に進む中で、自然と付加が加わって人間は成長していくと思う。できたら、付加が自然にかかるような規模の学校が望ましいと思っている。